



G8各国の首脳陣とBarroso氏

G8を安全に

30台のフリアーシステムズ 赤外線カメラがドイツでの 世界首脳会議の安全な開催に一役

G8はカナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、ロシア、英国、米国の政府のための国際フォーラムです。欧州委員会代表もすべての会議にメンバーとして出席しています。これらの国を合わせるとその経済規模は世界経済の半分以上を占めます。国際問題に対応するための最も重要な国際フォーラムのひとつです。

初めての主要先進国首脳会議は1975年フランスのランブイエで世界経済の発展について話し合うために開催されました。当時は世界の6ないし7の経済大国が参加しました。これが世界経済サミットの始まりです。

現在でもG8サミットは各国の首脳にとって一年のクライマックスです。議題は世界政治全般にわたります。経済問題に加えて外交政策、安全保障政策、開発問題が話し合われます。G8サミットは世界の貧困をなくすためのキャンペーンなど数多くの世界的なイニシアチブを打ち出してきました。

G8サミットでは8カ国の首脳が一同に会します。サミットの期間中、気候変動、アフリカ支援のための提言、イランの核開発問題に何をすべきか等、世界の最も差し迫った問題について話し合われ、決定されま

す。2007年のG8サミットの議長国はドイツで、ハンブルグ近郊のバルト海沿岸の保養地ハイリゲンダムで開催されました。

きわめて高い安全・セキュリティ対策世界の経済大8カ国の首脳が一同に会するサミットでは当然最高レベルのセキュリティが求められます。G8サミットでのすべての決定事項が万人によって大歓迎されるわけではありません。抗議者たちが議場への入口を封鎖しようとしたり、議場に入ろうしたりすることもあります。会場でテロ攻撃が起こる可能性があることは言うまでもありません。大統領、首相、首脳陣のスタッフはこのような危険から常に守られる必要があります。

このようなタイプの行事では安全・セキュリティ対策については開催前と開催期間中は最高機密であることが通常です。行事が終わ



22台のフリアーシステムズの赤外線カメラ SR-35が長さ11キロのフェンスに沿って設置されました。





ってはじめにセキュリティの全容が明らかになります。2007年のサミットはバルト海近郊で開催されました。海岸から32キロ沖まで立入禁止区域が設けられ、海岸のサミット会場近くを船舶が航行することをできなくしました。海中に長さ2マイルの網を張り、向こう見ずな抗議者がサミット開催地にこっそり泳いで行くこともできなくしました。

しかし陸地のセキュリティ対策も極めて高いものでした。首脳陣の身の安全を確実に守るために1万6000人以上の警官が配置されました。会議の会場となったホテルは抗議者がトンネルを掘って下から入ってくることを防ぐために地中深く掘った全長11キロのセキュリティフェンスで囲い込まれました。



コントロールルームの一部

一帯のセキュリティを守るのに
赤外線カメラが一役

G8サミットのセキュリティ対策はメクレンブルク-西ポメラニアの内務省によってサミットの1年半前に開始されました。契約した会社の一つはRostockにあるSiemens Building Technologiesでした。同社は安全な会議を実施するために必要とされるビデオ等のすべての電子セキュリティ機器の納品と設置を依頼されました。

「地元の革新的な企業を探していました」とSiemens RostockのDirector, Haacker氏は言います。「Siemensは注文を受けて大変光栄でした。Siemensとその手腕への信頼の現れですから。」

22台のフリーステムズ の赤外線カメラSR-3がセキュリティフェンスに沿って設置され、フェンスの前のエリアのセキュリティを確保し、だれもフェンスに近づいたり、ま

てやフェンスを登ることのないようにしました。赤外線カメラが1日24時間監視しました。

赤外線カメラは400メートルごとに設置されました。SR-35にはすぐれた性能を備えた広い視野(20°)を提供する35ミリレンズが搭載されています。SR-35は500メートル以上離れたところの人間を検知することが可能です。

SR-35カメラはセキュリティネットワークに簡単に組み込むことができました。広範囲をとらえた画像がコントロールルームのモニターのひとつに映し出されました。

8台のフリーステムズ のハンディタイプ赤外線カメラFlashSightをフェンスやほかの保安区域のパトロールの際に警察が携帯しました。FlashSightはポータブルの赤外線カメラです。重さ1キロ未満ですので、持ち運びに最適です。単2リチウム電池4本で7時間以上の使用が可能です。



The security perimeter for the G8 summit

赤外線カメラ:CCTVと比べての優位性
赤外線カメラが昼光カメラよりも優れている点は、どんなに細かいところも見ることができるクリアな画像を生成することです。昼間だけでなく夜間の使用が可能です。赤外線カメラは操作するのに光を必要としません。夜の真っ暗闇の中でも画像を生成します。薄い霧、雨、煙の中でも見ることができます。



FlashSight camera

赤外線カメラを使ってフェンス前のゾーンとフェンスそのものを監視することで照明塔を設置する必要がなくなりました。フェンスの全長にわたって照明設備を設置することはお金がかかるだけでなく、照明は侵入しようとする者に攻撃のルートを明らかにすることになります。さらに、侵入しようとする者は簡単に影の中に隠れることができます。

故障ゼロ

セキュリティは一日24時間稼働していなければなりません。「もしカメラのひとつに不具合が生じていたら、あるいは私たちが納品した装置に問題があったなら、2時間で修復しなければなりません。」とSiemens Rostockのプロジェクト長のSchoknecht氏は言います。「ですから私たちは装置と合わせてスペア部品も注文しました。SR-35の1台が故障したときに備えてスペア用の1台も注文しました。ところがすべての赤外線カメラの調子が大変よかったのでスペアを使う必要はありませんでした。」とSchoknecht氏は続けます。

SiemensがG8に提供した装置はすべてパーフェクトで、高レベルのセキュリティを必要とする次のプロジェクトや次回のG8サミットへの準備もできています。



赤外線カメラは夜の闇の中の侵入者を容易に検知することができます。



赤外線カメラに関する情報は弊社までお気軽にお問い合わせください。

フリーステムズジャパン株式会社
〒141-0021
東京都品川区上大崎2-13-17
東急目黒ビル5F
☎ : 03-6721-6648
Fax : 03-6721-7946
e-mail : info@flir.jp

www.flir.com